

松前町 DXアクセラレータープログラム事業

支援事例集



 松前町

事業概要

IT・経営に精通したコンサルタントが現状把握～課題整理、計画策定、実行、効果測定まで一貫して支援。実効性の高い業務改善を実現するとともに、デジタル活用の定着を図る事業である。

※参加事業者のデジタル浸透度に応じてDX-Ready/DX-Ready以前に分類して最適な支援を実施。

プログラムで提供される内容

共通プログラム

DX診断

現状の把握

DX計画策定

ロードマップ作成

オンライン動画学習

基礎知識学習

定例会

月1回(対面)

デジタル浸透度に応じたプログラム

DX-Ready 3社

支援内容

- ・月1回の個別訪問
- ・月1回の個別オンラインMTG
- ・チャットサポート（随時）

DX-Ready以前 6社

支援内容

- ・月1回のオンライン・グループコンサル
- ・チャットサポート（随時）
- ・目標設定の個別サポート

プログラムの段階的支援

現状把握・課題整理

STEP 1

業務・経営状況のヒアリング
DX診断ツールで課題抽出



DX計画の策定

STEP 2

改善案整理・ロードマップ策定
デジタルツールの紹介
スケジュール・体制の設計



実行支援

STEP 3

ツール導入・業務改善の実行



効果測定・課題抽出

STEP 4

KPI達成状況の評価・分析
成果報告資料の作成
今後の行動計画の決定



CASE 社名 / テーマ 業種

01

まさき建設株式会社

商談・ノウハウのAI資産化による教育コスト削減と賃上げの実現

建設業

02

株式会社アイビ広告

バックオフィスと現場の「デジタル障壁」を解消する90%の時間削減とマニュアル自動構築

デザイン業

03

有限会社吉岡工業

「ベテランの頭脳」をAIで標準化。事務スタッフによる資材選定と残業ゼロの実現

建設業

04

義農味噌株式会社

受注プロセスのペーパーレス化と一括データ処理による、属人化の解消

食品製造業

05

扇屋食品株式会社

AIとアプリ活用による「組織的営業力」への転換とDXチームのMVV策定

食品製造業

06

重松農園

生成AIを活用した「SNS運用のルーチン化」と認知度向上

農業

07

LENGTH hair graphic

39年続く「なんとなくの慣習」をAIで打破。利益意識の向上と新規来店数増加

美容業

08

株式会社龍宮堂

AI議事録による情報共有の迅速化と、指導内容の「即時マニュアル化」の実現

食品製造業

09

福八モテナス合同会社

報告書作成時間の短縮、問題解決における「社内体質」への変革

給食業

CASE
01

まさき建設株式会社

所在地 〒791-3120 愛媛県伊予郡松前町筒井399-1

事業内容 建設業

従業員数 33名



参加の背景

営業記録がメモ程度で属人化し、ノウハウが個人の頭の中しかないことが課題であった。新人の教育に3ヶ月以上を要し、教育コストの増大が売上拡大と賃上げの大きな足かせとなっていたため、DXによる変革を決意した。

テーマ

商談・ノウハウのAI資産化による教育コスト削減と賃上げの実現

営業記録が個人のメモ程度に留まり、担当者間での引き継ぎやノウハウ共有が困難であった状況を打破するため、会社全体で記録をデジタル資産化する体制を構築。音声AIツール「Notta」を導入し、商談内容をスマートフォンで録音・リアルタイムでテキスト化。これにより、これまで担当者の記憶に頼っていた商談内容を漏れなく可視化。さらに、生成AI「Gemini」を活用し、文字起こしされた膨大なデータを自動要約・整理する仕組みを運用。AIによって構造化された記録をそのまま教育資料や引き継ぎ書として活用し、組織的な情報共有プロセスを確立させる体制を整備。

取り組み内容

notta
X
Gemini



支援前 BEFORE

3ヶ月

営業パーソンへの基礎的指導期間

営業記録は個人のメモ程度に留まり、貴重な商談ノウハウが組織に蓄積されず個人の経験に依存していた。体系的なマニュアルがないため、ベテランの背中を見て覚える「同行教育」がメインとなり、新人の戦力化までに膨大な時間とコストを要していた。

支援後 AFTER

1ヶ月(約67%削減)

営業パーソンへの基礎的指導期間

NottaとGeminiで商談を自動記録し、そのまま教育資料化。経営トップが「DXで楽ができないか」という視点で業務を捉え直す組織へ変容。

【短期目標】 3~6ヶ月以内

- ・請求書業務の自動化：手作業による膨大な集計・照合・入力をデジタル化し、事務負担を大幅に軽減する。
- ・バックオフィスDXの着手：営業現場の成功に続き、事務部門でもデジタル化による効率化を推進する。
- ・全社的な省力化の実践：業務を「楽にする」成功体験を共有し、組織全体でさらなる余力を創出する。

【中長期目標】 1年以上

- ・次世代が輝く企業文化の構築：AI活用を標準化し、若手が早期に活躍できる環境を整える。アナログな建設業のイメージを「スマートな職場」へと塗り替える。
- ・持続可能な経営基盤の確立：商談や現場ノウハウの資産化を全社へ広げ、属人性を排除する。外部環境に左右されず、確実に事業を継承できる体制を強固にする。
- ・地域No.1の魅力的な職場づくり：上記取り組みで生まれた利益を原資に、賃上げや休日増を実現し、「愛媛県で一番就職したい建設会社」というブランドを確立する。

伴走支援を通しての感想・気づき

DXの本質は単なるITツールの導入ではなく、「いかに楽をして最大の成果を出すか」という経営思想の転換と確信。今では「より効率化できる業務はないか」と自問自答し、付加価値の低い作業をAIに委ね、人間にしかできない「顧客の心に寄り添う時間」を増やす前向きな姿勢が定着している。省力化を経営基盤に据えたことで「愛媛県で一番就職したい建設会社」という目標が、今や現実的なロードマップとして始動している。

CASE
02 株式会社アイビ広告

所在地 〒791-3161 愛媛県伊予郡松前町神崎707-3
 事業内容 デザイン業
 従業員数 15名



参加の背景

勤怠管理は手書きと手入力に頼り、事務員の集計作業に丸一日を要していた。また、職人気質の現場ではPC操作が敬遠され、教育がOJT主体の属人化した状態に陥っていたため、業務の標準化が急務となっていた。

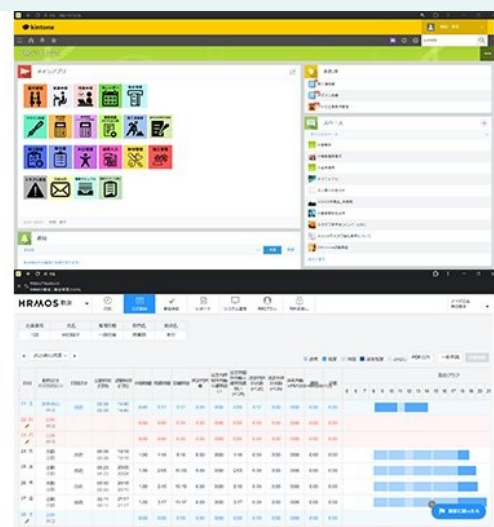
テーマ

バックオフィスと現場の「デジタル障壁」を解消する
90%の時間削減と マニュアル自動構築

現場の心理的障壁を最小限に抑えつつ、業務効率を最大化する施策を展開した。まず、スマートフォンやPC操作を介さないICカードによる打刻システムを導入。現場スタッフはカードをかざすだけで勤怠が完了し、バックオフィスではデータが自動集計される仕組みを構築した。さらに、属人化していた教育プロセスの改善に向け、現場での指導内容や会議を音声解析ツールで文字起こしし、そのデータをAIで解析。ベテランの技術や注意点をまとめた標準マニュアルを自動生成するフローを確立した。これにより、現場スタッフが自らマニュアル作りに参加し、知識を共有する文化の醸成を図った。

取り組み内容

kintone

HRMOS
ハーモス

支援前 BEFORE

事務：手書き日報の転記・集計 月 6～8時間

現場：マニュアルのない新人教育 月 10～15時間

【事務】判読困難な手書き文字を解読し、丸1日かけて転記・集計。ミスが許されない苦行となっていた。【現場】マニュアルがなく、ベテランが月10～15時間を教育に費やしていた。デジタルへの拒絶反応が強く、アナログな慣習が組織の成長を阻んでいた。

支援後 AFTER

事務：月 30分（約90%以上の工数削減）

現場：月 5時間（AI活用による教育効率化）

【事務】ICカード導入で集計作業を30分へ短縮。現場の抵抗も皆無となり、事務負担を劇的に解消した。【現場】AIによる自動マニュアル化で教育時間を月5時間に圧縮。スタッフが自律的にマニュアルを更新する文化が芽生え、デジタルへの苦手意識も完全に払拭された。

【短期目標】 3～6ヶ月

業務マニュアルの拡充：主要業務の可視化を完了させ、属人化の解消と教育の効率化を実現する。kintoneアプリの整備：案件管理・情報共有の基盤を構築し、社内情報の流通スピードを向上させる。

【中長期目標】 1年以上

データ駆動型経営の実現：売上や案件データの可視化による迅速かつ正確な経営判断体制の構築。主体的組織への変革：デジタル活用を文化とし定着させ、社員が付加価値の高い業務に注力できる環境を整えることで、持続的な競争を獲得する。

伴走支援を通しての感想・気づき

デジタル化の成否は、ツール性能以上に現場の心理的ハードルを下げられるかにあると痛感した。既存業務に寄り添った小さな改善の積み重ねが抵抗感を払拭し、特にkintoneに焦点を当てた取り組みは高い効果を発揮した。この現場起点のDXは効率化にとどまらず組織の意識改革へと繋がり、デジタルを味方と捉える変化が今後の成長の原動力となる。

CASE 03 有限会社吉岡工業

所在地 〒791-3155 愛媛県伊予郡松前町鶴吉 6 6 0
事業内容 建設業
従業員数 4名



参加の背景

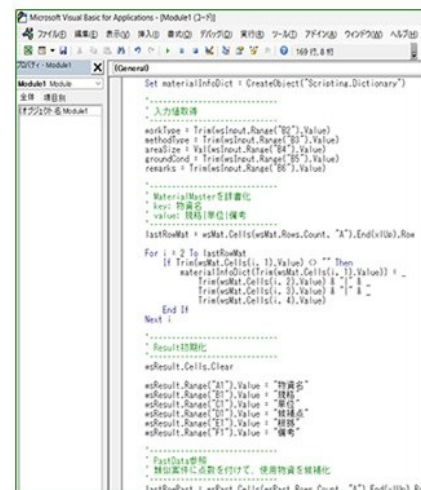
工事資材の選定がベテランの経験にのみ依存し、現場作業員が帰社後にその作業を行うため、慢性的な残業が発生していた。専門知識の壁を打破し、事務スタッフでも対応可能な体制を築くべく、DXへの挑戦を決意した。

テーマ

「ベテランの頭脳」をAIで標準化。事務スタッフによる資材選定と残業ゼロの実現

ベテランの「暗黙知」をデジタル資産化し、誰でも活用できる仕組みを構築した。具体的には、過去の膨大な施工データや資材発注履歴をAIに学習させ、現場の条件を入力するだけで最適な資材を瞬時に提案する「資材選定アシスタント」を運用。これにより、従来は現場スタッフにしかできなかった高度な判断を、専門知識を持たない事務スタッフが正確に代行できる体制を整えた。また、日報やSNS発信などの付随業務についてもAIを活用して作成をルーチン化。現場から戻った後の事務負担を極限まで削ぎ落とす具体的なフローを確立した。

取り組み内容



支援前 BEFORE

深夜残業常態化 SNS更新月1~2回

特定スタッフの負担/収支管理は月末集計

特定スタッフの深夜残業が常態化し、現場は疲弊。SNSは月1~2回、収支管理も月末集計と後手に回り、リアルタイムな数字に基づく経営判断が下せない状況にあった。事務員も専門知識の壁から支援できず、社内には諦めの空気が漂っていた。

【短期目標】 3~6ヶ月

AIによる物資選定の精度をさらに高め、発注ミス・ロスゼロに近づける。

支援後 AFTER

深夜残業解消 SNS更新週2回

事務負担30%削減/収支リアルタイム化

AI活用で事務負担を30%削減し、現場の深夜残業を解消した。事務員による資材選定や発注代行が可能となり、現場が施工に集中できる体制へ進化。SNSは週2回更新、収支はリアルタイム化され、組織的な支援で生産性が劇的に向上した。

【中長期目標】 1年以上

AIを活用した「ノウハウのデジタル資産化」を進め、新しいスタッフが入った際にも即戦力として活躍できる、属人化のない強い組織を目指す。

伴走支援を通しての感想・気づき

専門知識がないと絶対にできないと思い込んでいた業務の多くが、テクノロジーによって補完可能であるという大きな気づきを得た。ベテランの頭の中を可視化することは、単なる効率化だけでなく、チーム全員が同じ目線で仕事ができるという組織の安心感に繋がった。DXは決して一部の得意な人のためのものではなく、全員が恩恵を享受し、チーム全体のポテンシャルを最大限に引き出すための武器であると実感している。

CASE 04 義農味噌株式会社

所在地 〒791-3195 愛媛県伊予郡松前町永田345-1

事業内容 食品製造業

従業員数 60名



参加の背景

FAXや手書きによる受注処理が1件ごとに発生し、作業時間の増大と特定担当者への依存（属人化）が深刻であった。業務の標準化を図り、誰でもミスなく対応可能な体制を構築するため、DXへの挑戦を決意した。

テーマ 受注プロセスのペーパーレス化と一括データ処理による、属人化の解消

アナログな受注工程を抜本的に見直し、デジタルツールを活用した一括処理体制を構築。データ処理ツールを導入し、バラバラの形式で届くPDFやExcelの受注データをシステムが読み込める形式へ自動変換。これまで9工程を要していた複雑な手順を6工程へと簡略化。さらに、AIアプリを活用して返信用PDFを自動生成する仕組みを運用。従来はFAX受信後に1件ずつ手書きで行っていた返信作業を、複数社分まとめて一括処理できるフローを確立。これにより、ベテランの記憶や勘に頼っていた個別ルールをシステム側に組み込み、属人化の解消を徹底。

取り組み内容



支援前 BEFORE

30分・9工程

受注1件あたりの処理時間・工程数

1件あたり30分、計9工程の受注業務は、ベテラン従業員の記憶に頼る属人化が大きな課題であった。手書きの返信作業など負担も重く、入力ミスへの不安が常態化していた。特定の担当者によって業務が滞る不安定な現場を改善するため、業務効率化と脱アナログ化が急務となっていた。

支援後 AFTER

15分・6工程

受注1件あたりの処理時間・工程数

受注業務時間50%削減の15分へ短縮し、工程も33%削減。一括処理の導入で生産性が劇的に向上した。業務の標準化により属人化を解消し、誰でも対応可能な体制を確立。組織の柔軟性と安定性も大幅に強化された。

【短期目標】3～6ヶ月

WEB受注を行う得意先を増やし、今回構築した業務フローを横展開する。Power AutomateなどのRPAツールを導入し、定型業務の自動化を進める。納品書・帳票類の電子化を検討し、紙書類の削減を進める。

【中長期目標】1年以上

AIや自動化ツールの活用により、事務業務の効率化と人のミスの削減を徹底する。さらに、本取り組みで得た知見を全社的に展開することで、企業全体のDXを加速させていく方針である。

伴走支援を通しての感想・気づき

システム導入そのもの以上に業務の流れをゼロベースで見直すことの重要性を痛感した。当初は大掛かりな投資が必要だと考えていたが、身近なツールやAIの組み合わせで、長年の悩みであった属人化を十分に打破できることを学んだ。現場レベルでの改善がスタッフの心理的負担を軽減し、ミスへの恐怖から解放してくれた。DXとは単なるIT化ではなく、現場のストレスを取り除き、安定した組織運営を実現するための不可欠なプロセスである。

CASE 05 扇屋食品株式会社

所在地 〒791-3102 愛媛県伊予郡松前町北黒田571

事業内容 食品製造業

従業員数 260名



参加の背景

基幹システム更新を機に、Excelベースの日報管理と属人化した顧客情報の脱却を目指した。熟練スキルの個人依存を解消し、現場の知見を組織の資産として共有・活用できる基盤構築が急務であった。

テーマ

AIとアプリ活用による「組織的営業力」への転換とDXチームのMVV策定

現場の心理的抵抗を払拭し、組織的な情報共有を促進するためのデジタル基盤の構築に着手した。具体的には、ノーコードツールを活用し、日報と顧客マスタが連携する専用アプリを独自に試作。これまでExcelに埋もれていたTODO管理や顧客フォローの進捗を、チーム全体で可視化するための検証を進めている。さらに、生成AIを活用してDX推進チーム自身のMVV（ミッション・ビジョン・バリュー）を策定。自分たちが何のためにデジタル化を進めるのかという目的を言語化し、現在は本採用に向け、現場主導で改善を繰り返す「トライアル運用」を開始した。

取り組み内容



支援前 BEFORE

230~240件/月

一人あたりの日報作成・管理案件数

AppSheetを用いた日報入力の実験により、作成工数を約70%削減できることを実証した。音声入力を活用した隙間時間での即時入力や、データの社内共有・横断検索の利便性が現場で高く評価されている。本採用に向けた運用ルールの整備を進めており、新人への引継ぎコスト低減など、組織的な営業基盤の構築に向けた確かな手応えを得た。

支援後 AFTER

作業工数 70% 削減

日報作成・管理に伴う作業負担

顧客に常に提案が届く仕組みを構築し、「選ばれる理由」を確立する。また、20年来の基幹システム刷新に向け、SaaS等の柔軟な外部サービスも組み合わせた最適なシステム構成を検討。現場主導でベンダー選定から設計まで主体的に関与し、真に使い勝手の良い基幹システムの構築を完遂させる。

【短期目標】 3~6ヶ月

日報アプリの使用感を高めるため、現場視点でUI/UXの改修を徹底する。並行して仕入・提出見積のデジタル管理へ着手し、営業所間でのリアルタイムなデータ共有を実現したい。現場ごとの課題に即したITツールの試行を繰り返し、自社に最適な成功事例を積み重ねていく。

【中長期目標】 1年以上

顧客が当社の商品を知らないという状況をなくし、常に提案書が届いている状態を構築することで、「選ばれる理由」を確立する。また、基幹システムの刷新はベンダーの変更も視野に入れ、主体的に行動できる体制を整える。

伴走支援を通しての感想・気づき

DX成功の鍵はツールそのものよりも、推進チーム内での志の共有にあると痛感した。AIを活用して自分たちの方向性を明確に示したことで、現場から共感と具体的な行動が生まれ、組織の空気が確実に変わり始めた。これまで個の力に頼り切っていた営業組織が、デジタルを介してチームの力へと転換していくプロセスには大きな手応えを感じた。テクノロジーは人の可能性を引き出し、現場の結束を強めるための強力な触媒である。

CASE
06 重松農園

所在地 〒791-3134 愛媛県伊予郡松前町西古泉452

事業内容 農業

従業員数 6名



参加の背景

SNS発信の重要性を感じつつも、投稿作成の心理的ハードルが高く継続できない課題があった。業界全体のアナログ文化を打破し、デジタルツールで自社の魅力を届けるルーチンを確立すべく参加した。

テーマ

生成AIを活用した「SNS運用のルーチン化」と認知度向上

継続できる情報発信を目指し、生成AIをパートナーとした運用体制を構築した。具体的には、ChatGPTを活用して投稿の構成や文案作成をルーチン化。農作業の合間でも短時間で質の高い発信ができる仕組みを整えた。また、AIツールに自社の想いや理念を学習させ、発信内容の軸となる指針を言語化。単なる作業報告ではなく、農園のこだわりが一貫して伝わる発信スタイルを確立した。これにより、AIに相談しながら視点を広げ、自分ひとりでは思いつかなかった表現を積極的に取り入れる運用を定着させた。

取り組み内容



支援前 BEFORE

月2回更新が限界
フォロワー400名で停滞

SNSの必要性を感じつつも、投稿内容に悩み月2回更新が限界。フォロワー数も400名で伸び悩み、農作業の忙しさや業界のアナログ文化も重なり、デジタルでのファン作りや認知拡大に高い壁を感じつつも、後手になる停滞状況にあった。

支援後 AFTER

週2回定期発信が定着
4ヶ月でフォロワー約490名に

AI活用で週2回の定期発信が定着し、4ヶ月でフォロワーは約490名に。集中した発信で周囲から声をかけられる機会が劇的に増え、心理的ハードルも払拭され、AIを相談相手に発信を通じたブランディングが着実に実を結んでいる。

【短期目標】 3～6ヶ月

SNSの運用精度を継続的に向上させることが今後の課題である。また、業務や家庭のことが少し落ち着いた段階で、以前より課題となっていた売上表の作成に取り組む予定だ。

【中長期目標】 1年以上

親の高齢化や属人化を解消するため、業務の見える化を加速させる。生成AIを積極的に活用して徹底的な簡素化・効率化を図り、着実な売上向上と次世代の育成を両立する組織作りを目指します。

伴走支援を通しての感想・気づき

AIは単なる自動化ツールではなく、自分の思考を拡張してくれる壁打ち相手であると気づかされた。ひとりで悩んでいた発信作業が、AIに相談する習慣によって有益で楽しい業務へと変わったことは大きな収穫だった。自分では当たり前だと思っていた農園の日常が、AIの視点を借りることで価値あるコンテンツに変わる喜びを知った。デジタルを味方につけることで、アナログな農業の世界でも新しい可能性を広げていけるという確信を得た。

CASE
07

LENGTH hair graphic

所在地 〒791-3134 愛媛県伊予郡松前町西古泉244-10

事業内容 美容業

従業員数 3名



参加の背景

長年の慣習による無駄が多く、慢性的な人手不足に悩んでいた。時代に合わせた業務短縮と環境整備を図るとともに、スタッフ一人ひとりが売上だけでなく利益を意識できる組織作りを目指し、DXへの挑戦を決意した。

テーマ 39年続く「なんとなくの慣習」をAIで打破。利益意識の向上と新規来店数増加

39年間疑うことのなかった業務習慣を、AIという客観的な視点で再定義した。具体的には、集客の要となるGoogleマップ上の口コミに対し、AIを活用して返信文作成を標準化。全顧客へ丁寧かつ迅速に返信する体制を整えた。また、AIに経費構造などのデータを分析させ、隠れた無駄を可視化。さらに、長年当たり前として維持していたフリーダイヤルの契約について、AIと共にコスト対効果を検証し、具体的な削減策を講じた。これらの施策を通じ、数字に基づいた経営判断を行う文化を現場に浸透させた。

取り組み内容



【LENGTH hair graphic】レングスヘアグラフィック

支援前 BEFORE

慣習による業務の形骸化と利益意識の欠如

美容業界の慣れで形骸化した業務が山積し、レビュー投稿の放置や返信のムラによりGoogle経由の新規客は3~4ヶ月間で1人であった。月1万円のフリーダイヤル等の無駄な経費も利益を圧迫し、現場の利益意識も欠如していた。

【短期目標】3~6ヶ月

求人媒体の掲載内容をAIと相談し、数ヶ月に1回変えているが、まだ結果に結びついていないので、改善し、人員確保したい。

支援後 AFTER

新規来店数18倍増と高収益体質への変貌

AIによる口コミ投稿の標準化で、Google経由の新規客が4ヶ月間で18人急増。不要なフリーダイヤル廃止により年12万円を削減した。スタッフの利益意識も向上し、39年続く組織が現代的な高収益体質へ変貌を遂げることができた。

【中長期目標】1年以上

社内マニュアルを作成し、今後入社するスタッフが良いマインドを持ちながら、スタッフが成長し、長く働いてくれる環境を整えていきたい。

伴走支援を通しての感想・気づき

当たり前だと思っていた業務になぜ？と問い直す。AIという客観的な視点を取り入れたことで、感情論ではなくデータに基づいて止めるべき業務を判断できるようになった。無駄を削ぎ落とすことは、スタッフを守り、お客様により良いサービスを提供するためのポジティブな決断である。長年の伝統を守りつつも、テクノロジーを柔軟に取り入れることで、美容業界の新しい働き方を自ら体現していきたい。

CASE
08

株式会社龍宮堂

所在地 〒791-3132 愛媛県伊予郡松前町西高柳239-1
事業内容 食品製造業
従業員数 35名



参加の背景

従業員のデジタル知識が乏しく、社内の意識改革が急務であった。事務作業の面倒をAIで解消することで、組織全体の常識をアップデートし、変化を恐れない体質を作るために参加した。

テーマ

AI議事録による情報共有の迅速化と、指導内容の「即時マニュアル化」の実現

背中を見せて覚える文化からデジタルで共有する文化への転換を図った。まず、音声解析ツール notta を導入し、会議や朝礼、さらには現場での指導内容をすべて録音・文字起こしする体制を構築。これにより、これまで作成時の作業負担から敬遠されていた議事録を自動生成し、即座に全従業員へ周知するフローを確立。さらに、録音された指導内容をAIで整理し、そのまま動くマニュアルとして資産化することで、誰でも同じクオリティで教育・実務にあたる基盤を整備した。

取り組み内容



支援前 BEFORE

議事録 存在なし

会議・朝礼の内容共有状況

議事録の作成は「手間がかかる面倒な作業」として敬遠され、会議や朝礼の内容は参加者の記憶に頼るのみであった。重要な決定事項が欠席者や現場スタッフに正確に伝わらず、「言った言わない」のトラブルや情報格差が日常的に発生していた。

支援後 AFTER

即時 100% 共有

デジタル配信による周知徹底

Nottaの導入により、音声から自動生成された議事録が会議終了直後に配信される体制へ進化した。情報の伝達漏れがゼロになり、現場への周知スピードが劇的に向上。指導内容の録音をそのまま活用することで、マニュアル作成の工数も大幅に削減された。

【短期目標】 3~6ヶ月

会社での紙の使用量を支援を受ける前の半分以下にしたい。

【中長期目標】 1年以上

業界の中ではデジタル技術の活用に関してトップクラスの会社になりたい。当然それを活用して更なる売上向上を目指したい。

伴走支援を通しての感想・気づき

DXは技術の問題ではなく、従業員の心のハードルを下げるプロセスであると学んだ。経営側がAIを使って楽しそうに業務を効率化する姿を見せることで、現場の不安が期待に変わり、少しずつ意識がアップデートされていくのを肌で感じている。小さな改善を積み重ね、成功体験を共有することが、大きな組織変革への近道であることを確信した。これからもAIを武器として活用し、古き良き文化と最先端の効率性を両立させていきたい。

CASE
09

福八モテナス合同会社

所在地 〒791-3120 愛媛県伊予郡松前町筒井874

事業内容 給食業

従業員数 20名



参加の背景

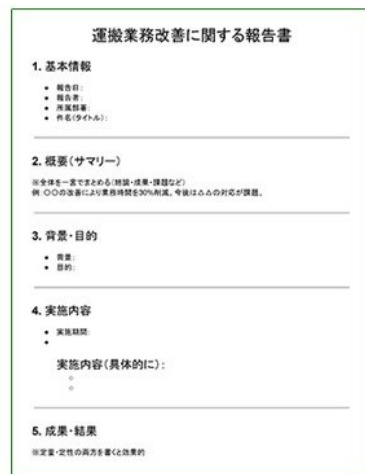
事務作業を全員が後回しにするアナログな体質により、情報の周知漏れや問題解決の遅れが常態化していた。書類作成の心理的ハードルを下げ、現場の声を即座に経営判断へ繋げる機動力のある組織へ変革すべく参加した。

テーマ

報告書作成時間の短縮、問題解決における「社内体質」への変革

書く作業を話す作業に置き換えることで、事務負担の抜本的な軽減を図った。具体的には、音声解析ツールを全社的に導入し、会議や打ち合わせの内容をリアルタイムで文字起こし。さらに、そのデータを生成AIに投入し、要点のみを整理した報告書へと瞬時に変換するフローを確立した。これにより、従来行っていたパソコンへの手打ち作業を完全に撤廃。単なる時短に留まらず、AIによる客観的な要約を活用することで、報告内容の精度向上と標準化を同時に実現する具体的な仕組みを現場に導入した。

取り組み内容



支援前 BEFORE

書類作成の停滞と
情報伝達の遅延

報告書や議事録を後回しにする停滞した風土が社内に蔓延していた。書類1件に約1時間を要し、作成は苦痛で数日放置も常態化。その結果、重要アクションの伝達が遅延し、情報の鮮度と明確性が低下、意思決定の迅速性を著しく阻害していた。

支援後 AFTER

作成時間75%短縮と
デジタル体質への変革

音声解析と生成AIの連携により書類作成時間を15分へ短縮し、75%の削減を達成した。商談・会議直後にAIが下書きを生成することで、情報の正確性と即時性が向上。報告業務は負担からルーチンへ転換し、共有の活性化と迅速な課題対応を可能にした。

【短期目標】 3～6ヶ月

今回学んだことを社員に定着できるようにして、会社全体で問題に取り組む。

【中長期目標】 1年以上

会社と同じ方向性を持てる人材の確保。良い人材を確保するために売上を安定させ、盤石な土台を作る。

伴走支援を通しての感想・気づき

長年当たり前と諦めていた事務作業の苦痛が、発想の転換とテクノロジーの活用でこれほどまでに解消されるのかと衝撃を受けた。ツールを入れるだけでなく、なぜこの作業が滞るのかという根本原因に向き合ったことが、組織全体の体質改善に繋がった。簡素化のために何をすべきか、全員が自発的に考える習慣がついたことは、目に見える数字以上の価値がある。今後はこのデジタル体質を武器に、さらに質の高いサービスを追求していきたい。

お問い合わせ

発行：令和7年度 DXアクセラレータープログラム事業

松前町 産業建設部産業課

Tel：089-985-4120

Mail：212syoko@town.masaki.ehime.jp

